

令和3年9月30日
村田高校図書館

としょかんだより

令和3年9月号

新規受け入れ本の紹介

空飛ぶ馬

青空と、逃げる

この恋は世界でいちばん美しい雨

この恋はとどかない

サイダーのように言葉が湧き上がる

海に願いを風に祈りをそして君に誓いを

探偵 AI

生きてさえいれば

昨日の海と彼女の記憶

この気持ちもいつか忘れる

わたしの幸せな結婚 5

室町は今日もハードボイルド

ざんこく探偵の生きもの事件簿

伊達一族の中世

ヤングケアラーわたしの語り

いちねんかん

図書委員が選んだ本です。もっとあります。

こんな本もあります

「貸出禁止の本をすくえ！」 アラン・グラッツ著 ほるぷ出版

ある日、わたしの大好きな本が学校の図書室から消えたのがこのお話のはじまりだった。

内気で、友だちも少なく、唯一の楽しみは本を読むことという少女エイミー・アン。家でも学校でも、言いたいことも言えずに、おとなしくひっそりと暮らしていた。ところがある日、学校の図書室で、大好きな『クローディアの秘密』が貸出禁止になってしまったのをきっかけに、愛する本を救おうと立ち上がる。

このお話に出てくる貸出禁止本は日本でも人気のある本ばかり。でも、これらの本が過去30年間に実際にアメリカの図書館で異議申し立てや貸出禁止措置を受けた本だという。子どもの成長に良くない影響があるとレッテルをはられた本たち。ホントにそうなのか。決めつけるのは誰？

エイミーたちは大好きな本を救うことができるだろうか。



新聞・新聞・新聞 ②

第一面

新聞の顔ともいべき第一面は、はっきりしたルールで作られています。基本的に大小4～5の記事で構成されています。

右上が一番重要な記事①。中央部分が次いで重要な記事②、左下が三番目③。記事の量もこの順番で大きくなっています。左上にはやや大きめの囲み記事など連載もの④、右下には天気予報など小さな記事⑤がくることが多いようです。

この配置は流し読みをする場合の人間の目の動きを研究して決まったそうです。右上から左下へ、その後左上から右下へ。

私たちは習慣的に新聞を読むとき、視線でクロスを描きます。

この対角線上に見出しがきます。見出しも記事の重要度によって、大きさ、縦向きか横向きか、黒地に白抜きなどいくつかの段階があります。

さっと紙面を見渡して見出しで当たりをつけ、気になった記事をじっくり読む。これが新聞の正しい読み方です。

記事の一番下にはコラムがきます。朝日新聞なら「天声人語」といいますし、読売新聞なら「編集手帳」、毎日新聞「余録」。河北新報は「河北春秋」。

このコラム、小論文のお手本になります。毎日その日のコラムを書き写すだけで、確実に小論文力をあげることができますので、大学進学を考えている人は試してください。

なぜならコラムは全体の文字数が小論文で多い800字。起承転結にもなっています。小論文の感覚をつかむのにとっても良いです。

是非お試しください。

さらにコラムは試験の問題に使われることも多いのです。特に「天声人語」は毎年多くの大学の試験問題に出題されています。書き写すのは面倒という方も新聞を読むときに目を通すといいですよ。



業務連絡

本を借りたままの人は大至急お返してください！